

## 編集後記

本誌は、2020年度より誌名を『宇都宮共和大学都市経済研究センター年報』とし、まちづくり活動や産官学連携分野により特化した内容になりました。

本号の巻頭の特集1では、2023年12月に本学宇都宮シティキャンパスで開催したシティライフ学講演会「とちぎを救命救急の先進地に—安心安全なまちづくり—」で使用された資料とその後行われたトークセッションの様相を収録しました。済生会宇都宮病院救急・集中治療科主任診療科長/栃木県救命救急センター所長の小倉崇以氏を基調講演にお招きし、安心安全なまちづくりにとって救急医療が欠かせない存在であるということ、さらに先進医療都市構想についてお話いただきました。

また、初代総理大臣であった伊藤博文が憲法制定にかけた努力・普及について、宇都宮市での伊藤の足跡とともに紹介している研究ノートを収録することができました。

さらに、2022年度も本学ゼミナールは、学外の学生提案発表会で入賞を遂げました。宇都宮市主催「大学生によるまちづくり提案」において、本学ゼミナールがスーパースマートシティ創作表現部門で最優秀賞、調査研究部門で特別賞を受賞しました。本稿の「学生提案成果報告」に、本学学生による地域と連携したまちづくり提案活動の成果を多数掲載しましたので、ぜひご一読ください。

これからも宇都宮共和大学都市経済研究センターは、「市民社会に開かれた大学」の一翼を担うため、都市の生活科学（シティライフ）を学際的・実証的に調査研究するとともに、まちづくり、市民公開講座、講演会、セミナー、NPOとの連携など多様な活動により、地域社会や都市の発展に貢献することを目指して活動していきたいと考えております。今後とも、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（編集：宇都宮共和大学都市経済研究センター 年報編集担当 永井紹裕）